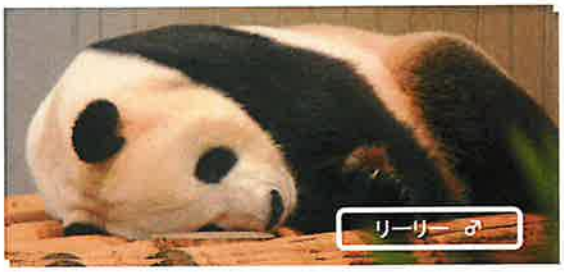
向陽介護便り

平成23年9月　第65号
発行人:㈲向陽介護システムズ
新宿区東五軒町1－12　青木ビル
TEL　03-3267-2015

中国が老いるとき

中国の温洲近郊で起きた中国高速鉄道事故から１ヶ月以上が経ち、かなり昔の出来事のような気がします。発展めざましい隣国「中国」。昨年には、日本を抜きGNP世界第２位の経済大国に、勢いは留まるところを知らず、まるで昭和３０年代の日本の姿を見ているようです。世界の大国に追いつけ追い越せとばかりに、世界中の技術を寄せ集め完全に消化しないまま、ひたすら突っ走る。これでは事故が起きるのは必至かもしれません。今回の事故は中国当局にとっても、かなりの衝撃を受けたようで、中国のマスコミも「47年間も死亡事故の無い日本の新幹線は何故これほどまでに安全なのか」と。１つは「安全を確保するための何重ものシステム」が構築されていること、２つ目は定期的に「新幹線に対する膨大かつ複雑な検査」が課されていることを挙げ、評価しています。加えて「安全神話などは存在せず、唯一の神話は、決しておろそかにしない細やかな事前の制御と、いかにリスクを最小限に抑えるかにかかっている」と結んでいます。このレポートはそのまま日本政府の原発担当者や東電関係者に読んで貰いたいと思います。



中国や韓国は、やはり偉大なる隣国なのです。お互い、良しにつけ悪しきにつけ、影響を与え続けてきました。韓国は、日本の介護保険制度を参考に、「スバル（＝韓国語で介護）保険」を３年ほど前からスタートさせました。中国も高齢化のスピードは速く、2010年の時点で、60歳以上の人口は１億7千万人、必要とされる介護スタッフの数は1000万人、対して 介護経験のある介護スタッフは僅か2万人。　2010年3月、中国政府は全国人民代表者会議で、「介護に力を入れる」という宣言をおこないました。この分野でも、日本のソフト（介護スタッフの養成システムや介護技術）の導入を真剣に検討しています。ただ、中国が導入を考えている介護は、施設介護のみで、訪問介護等の在宅介護は入っておらず、また都市部のみで農村部はその対象になっていないとも聞いています。

13億強の人口は、それだけで中国の経済的活力の強みです。しかしこれからもこの強みが維持できるのか、高齢者数の爆発的な増加は、中国指導部にとって大きな不安材料になっているのです。中国は、1970年代から厳密な少子化（一人っ子）政策を実施してきました。現在までのところ、中国の経済成長にとっても、国民全般の生活水準の改善にとっても一人っ子政策により人口増加率の減速が効果を挙げてきたことは明らかだと多くの学者は指摘しています。ただ、この「強み」が、これからは逆に大きな問題になりつつあるのです。　中国では1996年法律により、家族、とりわけ子どもには、両親の生活を支えることが義務として課されました。ただ、若者は仕事を求めて、両親と離れて暮らすケースも増え、家族の連帯に依存するのは、日本同様難しくなっています。

1972年10月、日中国交正常化の象徴として２頭のパンダが来日しました。あれから４０年近く。日本のみならず中国も「老い」を意識する時代に入ったかも知れません。